



留学生と語り合う No.95

RKKニュース (2024年春号)

NPO 法人 留学生と語り合う会(RKK) Relationship and Kindness are the Kings of Peace

監事雑感

Auditor's thoughts

RKKは今年で創立25周年を迎える。企業の平均寿命は30年、NPO組織は10年と言われているから、RKKは長寿であると言えよう。私は2016年から監事として、年に2度ほど予算執行の説明を聞き、決算書の金額と金融機関の残高を照合してきた。会計処理は正確で、非の打ち所がなかった。

最近、RKKの会議、集まりに出席して感じることは、出席率が低く、議論が低調であり面白くないことである。総会では長い報告と議案の朗読のあとは質問がほとんど無く、賛成多数で議案が短時間のうちに承認されてしまう。それに比べて昨年行われた運営懇談会での活発な発言は何だったのだろうか。

組織は、初めは熱っぽく立ち上がるが、だんだんと動きが鈍くなり、参加者が離れていく。丁度、床に転がしたボールがだんだん速度を失ってしまうのに似ている。何もしなければ止まってしまうのが自然の摂理である。そうさせないためには外力が必要である。組織の存続には若い力の獲得が必須であり、新しい方向に進むにはユニークなコンセプトが必要である。

運営懇談会の議事録を読んでみた。これだけの意見が出るのは、現状に不満や危機感があるからだと思った。それを乗り越えるには自身を変えるほかはない。新しいRKKを外に問いかけて、認めてもらえれば新しい道がひらけ、生き延びることができる。その意味で留学生の立場から考えた、留学生の新しい受け入れと支援体制、および外へのPR戦略を熟慮したいものである。 村田 威雄

This year marks RKK's 25th anniversary, a significant milestone considering the average lifespan of a company (30 years) and an NPO (10 years). Having served as an auditor since 2016, I've consistently found their accounting procedures to be meticulous. Twice a year, I've reviewed budget execution explanations and verified financial statement amounts against bank balances. Their financial practices are demonstrably accurate and reliable.

However, my recent attendance at RKK meetings and gatherings revealed concerning trends. Participation, both in terms of attendance and discussion, appears to be low, leading to less engaging sessions. This lack of engagement can be observed at the general meeting, where lengthy reports and bill readings are followed by minimal questioning and swift, majority-vote approvals. This stands in stark contrast to the vibrant discussions witnessed at last year's management meeting.

Organizations often start with a burst of enthusiasm, but that energy can wane over time, leading to disengaged members and a decline in participation. Like a ball rolling on the floor, momentum slows without intervention. This "organizational slowdown" can be countered by external forces. Introducing fresh perspectives through young talent and embracing fresh ideas are vital for sustained growth and innovation.

Reviewing the management meeting minutes revealed a sense of urgency and potentially, dissatisfaction with the status quo, evidenced by the multitude of opinions expressed. It's clear that transformation is key. By showcasing a revitalized RKK to the external world and seeking validation, we can forge a new path towards sustainability. In that spirit, I propose a thorough evaluation of international student support systems and external PR strategies, informed by the unique perspective of international students themselves.

Takeo Murata



Let's Enjoy Japanese Summer Festival (Tanabata)
ひらつか七夕まつりを留学生と一緒に楽しみませんか

Venue : Hiratsuka City Central Public Hall

When : 6th(Sat) Jul 12:30-16:30

Getting there JR Tokaido Line Hiratsuka Station

For more information, please scan the QR code.



留学生からのたより

From Captain Tsubasa to Coastal Engineering: My Journey of Learning and Running in Japan

Yokohama National University Hesamodin Enayati (Iran)



As a child, I watched Captain Tsubasa on TV, never imagining I would come to Japan 20 years later to continue my education. As a coastal engineer, I believe that Japan is one of the best places to learn and grow in my field due to its geographical location and coastal engineering projects. Beyond the academic environment, I have always been drawn to this country's culture and customs. Furthermore, the most enjoyable aspect of my life in Japan has been the opportunity to run with a group that I met through Hiranuma San, an RKK volunteer. Not only has exercising with this group improved my physical health, but with their assistance, I was able to achieve one of my lifelong ambitions: finishing my first full marathon on March 17 in Itabashi city. I am incredibly grateful to all the members of the RKK group for their steadfast support and encouragement throughout my journey.

右の写真の説明：平沼さんのコメント

「ランニングクラブで正月に江の島まで走った時のものです。場所は湘南海岸。ヘサム君は前列の左側にいます。その隣が平沼です」



初めまして、こんにちは！

横浜国立大学 ケン・ポリン (カンボジア)

1. 呼び合い

私はカンボジア人のケン・ポリンと申します。ポリンと呼んでいただければ嬉しいです。私の名前はよくある名前です。「何か成功する」という意味です。カンボジアでは名前と呼び合うのが普通です。苗字で呼ばれると失礼/不慣れ/不愉快に感じる人もいます。名前の書き順は、苗字・名前です。呼び合いは親しみ感が表すものですので、この記事を読んだきっかけに、これから他のカンボジア人に会えたら、名前と呼んで頂けると少しでも距離感を縮めると好意的に接することができると思います。

2. 留学する、その理由は？その目的は？

私は去年（2023年）の9月27日にまだ暑い頃に家族から離れ、この美しい国に参りました。横浜国立大学に通いながら様々なことを勉強させていただいております。

さて、この私にはよくこの美しい国の方に聞かれる質問はなんだと思いますか？この記事をお読みになった方ももしかしたら同じ質問をお持ちかもしれませんが、「なぜ留学先をこの国にしたのですか？」という質問です。

その一つは、この美しい国とカンボジアは、私が独立する10ヶ月前に、外交関係樹立し、去年1月9日で70周年を迎えました。この美しい国は、カンボジアの平和、発展の歴史で支援と貢献をしてくださる、非常に重要な関係です。また、第二次世界大戦後、敗戦したこの国は様々な国に賠償しながらも、外国の支援などに頼ることなく、たった10年少しで世界経済大国第2位になったことを非常に素晴らしいと思います。その経験から、様々なことを学べるはずだと思います。しかし、何よりもこの国が好きですから、来たのです。

留学の目的に関しては、実は私は来る前にやりたいリスト作ってまいりました。簡単にまとめさせて頂くと、この美しい国と国民の事をしっかりと勉強し、カンボジアとの友好関係をますます発展させ、少しでも貢献できればと思います。毎日の私はワクワクでいっぱいです。



活動グループ紹介

日本語支援グループ

私の日本語交流

中央地区 畔取 孝



『玉兔』（月岡芳年『月百姿』）孫悟空と月の妖精。

今回紹介する朱さんは、横浜国大大学院のゼミの先輩から RKK の存在を教えてもらい入会した留学生です。出身は、上海市のすぐ北にある江蘇省淮安市です。淮安市は国土無双と言われた韓信、孫悟空の著者呉承恩、周恩来元首相などの有名人の出身地でもあります。朱さんとは、オンライン Zoom を利用して日本語の交流をしました。すでに N 1 を持っていて言葉の不自由さがほとんどなかったので、当初、彼の趣味の小説を読んでもらい発音の訂正などをしていました。その後、やはり彼の趣味であるプロサッカー、バスケット（NBA）、アニメなどの会話を中心にすすめました。サッカー、バスケットであれば、世界で強い国、また日本人選手であれば、名前、実力のほかに年取についても熟知しているのには驚きでした。当然、ワールドカップ、オリンピック時だけの「にわかファン」の私は、逆に教えてもら

う立場になっていました。そのような彼にお願いをしたものがふたつありました。

一つ目は、RKKニュース 2023 年夏号への寄稿です。内容は、「アニメの聖地巡礼」をテーマに、日本語を勉強するきっかけになったのが趣味のアニメであったことから始まり、神奈川県内の巡礼の地を旅することが「アニメキャラとの距離を縮めてくれます」と最後まで上手にまとめてくれました。

二つ目は、北地区交流会へ一緒に参加することでした。参加した交流会の自己紹介の場面では、急な依頼にもかかわらず5分ほどの自己紹介を行い、また会員の方々からの質問にも的確に回答しておおきな拍手をいただきました。

朱さんは昨年未から一気に修論作成に集中して取り組み、無事合格することができました。その後、2月に一時帰国し、中国で就職活動をしたとのこと。3月には卒業式のため一旦日本にもどりましたが、帰国後も継続して就職活動をするようです。中国内の若者の就職難はマスコミからもよく伝わってきています。頑張ってください、次回オンラインで会話をするときには、よい結果が聞けることを祈っています。



留学生と共に学ぶ生成 AI との共生は？

南地区 原田 勝史



私は 2012 年 10 月に川島先生の RKK 日本語指導法講座（10 日間）を受講し、外国人が学ぶ文法に感動し、翌年 2 月恐る恐る RKK の門をたたき、これまで約 10 人の中国人留学生と日本語の勉強をしてきました。当初は緊張して、それ“N2 受験だ！”、“N1 受験だ！”、そして“形容詞だ！”、“動詞だ！”、“助詞だ！”と文法参考書と首っ引きで資料を準備し勉強していましたが、近年の中国人留学生はほとんど日本語を勉強し N1 を取得して来日するので、日本語を基礎から勉強することにはあまり興味を示さず、日常会話や論文添削を希望することが多く、専ら日常会話、論文添削中心に勉強しています。

現在は、中国安徽省出身の横浜国大修士 2 年の余新異さんと勉強をしています。彼もまた厦門大学外国語学部日本語科で日本語を学び N1 取得して来日しており、語彙の知識も豊富、会話のアクセントも癖がありません。従って、RKK への希望も主に論文の添削と就職支援でした。

彼はいずれ中国で起業するつもりで、“修士 1 年末までに日本企業の就職の内定を得て、後の 1 年は卒論を中心に勉学に集中、就職も仕事をしながら早稲田の MBA で学ぶため、できれば時間外労働が少なく高収入のコンサルタント業か IT 企業を目指す”という考えを持ち、現在は就職活動に全精力を集中しています。

彼とは週に 1 回対面で勉強していますが、専ら就職支援情報の交換と提出論文の添削が主たる勉強です。彼は最近生成 AI（有料チャット GPT）を使い始め、私に利点や使い方などを教えてくれます。彼は生成 AI の利用について、大学の論文などは担当教授の方針に従って生成 AI は利用せず自ら考え資料を作成し RKK の添削を受ける、エントリーシートなど就職活動の資料等は生成 AI を利用するという事で使い分けています。

今は日常会話で会話力の維持・向上を図り、彼の考え方や文意を十分に理解し意見のやりとりしながら論文添削を進めていますが、近年のうちに生成 AI の文章作成・添削能力や会話能力は格段に進化するでしょうし、その時、我々は何ができるのだろうか？共生は？と感じる今日この頃です。



社会見学グループ

RKK の見学会に参加して良かった！

横浜国立大学 LE VAN CHUNG (Vietnam)



皆さん、こんにちは。私はベトナムからきたレ・バン・チュンです。

横浜国立大学に入学する少し前に、RKKに参加して、これまで1年が経ちました。

私は留学機会を活かして、日本社会へのさらなる理解を深めたく、また、将来日本での就職活動をする際に社会的な知識は不可欠だと感じました。そのため、宇宙研究所（JAXA）やNHK放送局、東京証券取引所など、RKKが主催するすべての見学会に参加しました。これらの見学会

は、留学生である私にとってRKKの方々との交流や意見交換の場となるとともに、日本の社会や先端技術について学べる貴重な機会です。毎回、大変有意義で楽しい時間を過ごすことができました。この場を借りて、RKKの皆様から心から感謝申し上げます。

2024年3月、私は町田市バイオエネルギーセンターの見学に参加しました。近年、世界中で多くの国が災害に見舞われ、気候変動の深刻な影響を受けています。そのため、環境問題への対策がますます重要になっ

ています。町田市バイオエネルギーセンターの見学で、ごみ焼却施設や東京ではじめての生ごみのバイオガス化施設の高い技術を知りました。その上、高度な技術開発だけでなく、環境問題を解決するためには、共同社会の協力が不可欠です。日常のゴミは「Reuse」、「Reduce」、「Recycle」という3Rを積極的に実践することで、ゴミ処理施設への負荷を軽減できます。町田市バイオエネルギーセンターでゴミ分別の誤り



がセンターの火災を引き起こす原因、または従業員が手作業でゴミを分別する作業の大変さを見て、日常のゴミの削減や丁寧な分別に取り組むことが必要だと感じています。

町田市バイオエネルギーセンターの見学を通じて、私だけでなく参加者全員がゴミの削減や分別の重要性についての意識が高まったと信じています。今後は、ゴミ処理や環境問題に対する意識を高めるため、このような有意義な見学会を行うことは必要だと考えています。今回の見学会は誠にありがとうございました。



（廣越さんからのコメント）

留学生5人（ベトナム2人、カンボジャ・パキスタン・バングラデシュ各1人）と日本人13人が参加しました。生ごみなどを発酵させてバイオガスを作り、エネルギー（発電、熱）として利用するという機能を加えた新しい焼却場です。最初に施設紹介のビデオ（英語解説）を見た後、ゴミの持込みやいろいろな設備や作業を見学しました。我々の社会を支えるシステムの一部を知ることができたと思います。



文化ファミリー交流グループ

お花見会

文化ファミリー交流 G 徳屋 英生

3月30日（土曜日）、真夏を思わせる好天のもと、こども自然公園（大池公園）で恒例のお花見会が開催されました。

今年の桜は当初予定より大幅に遅れ1分咲き程度と淋しかったです。桜に勝る話の花が大輪を咲かせました。

10か国からの留学生14名と家族4名、日本人会員15名、総勢33名の参加でした。

日本人会員が準備した数々のお弁当に加え留学生が用意した各国のお国料理が花を添え、国際色あふれる楽しくも賑やかな食事となりました。

予定の3時間があっという間に過ぎ名残り惜しくも来年の再開を祈念して散会しました。



外国語学習グループ

中国語講座

会話を楽しむ！

外国語学習 G（中国語講座） 八木下 茂

「中国語で会話がしたい」との理由で当グループに入会し、早くも4年が経過しました。会社員の頃は中国出張などで、会話の機会は随分と有ったのが、定年を過ぎてからは会話の機会が殆んど無くなったのがその理由でした。

中国語は文面を見れば凡その内容が解る反面、発音に関しては日本語と全く異なり、しかも難解なため、口先が不器用な小生は今でも発音には難儀しています。語学の基本は、読む・聞く・話すであり、この順にレベルも上がって行きます。読む・聞くは Web や専門教材で学習出来ますが、話すことは相手があつての事なので、中国の友人が身近にいるとか、中国語教室等に通わないと会話力は上達しません。ネイティブとの会話に当たっては、正確な発音とそれなりの語彙力がないと、意思疎通が欠けてしまい、会話を楽しむことは出来ません。また会話の上達にはネイティブからの修正や助言が欠かせません。



我が RKK 中国語講座は 10 名の学習集団ですが、会話力のレベルはかなりの差があります。こうした状況で全員が楽しく学ぶためには、講師の力量と尽力が欠かせません。現在の権明先生の授業は丸 2 年となりますが、ZOOM 学習を通じ、試行錯誤の中で、学習者のレベルに見合った会話や質問のレベルも適宜変えるなどの工夫を凝らしています。使用教材も創意工夫し、マンネリ化しない様心がけている点には感謝、敬服しています。

授業は予習、復習が大切ですが、事前の予習資料の配布、学習後のビデオ配信で復習ができる仕組みが出来上がっており、語学上達のツールは十分そろっていると云えます。レベルアップは学習者の心がけ次第であると小生は思っています。

RKK 中国語講座の参加メンバーも固定されてきており、小生を含め全体のレベルは上がってきたと感じる今日この頃です。小生にとっては、語彙力の更なる向上、高齢に伴うボケ予防のため今後も積極的に講座に参加し、会話を楽しみたいと思っています。



ベトナム語講座

先生とクラス仲間にあじがとう

外国語学習 G (ベトナム語講座) 三浦 敏明



コロナ禍さなかの 3 年半前、たまたま立ち寄った、近くの市民活動センターで見つけた RKK ニュースの中にベトナム語教室開講のお知らせがあつたのです。私は RKK の会員ではありませんでしたが、問い合わせ先の番号に電話して、クラスに参加させていただけるかお尋ねしました。結果、幸いにも参加を認めていただきました。なんと心寛き RKK でしょう！

実は私は RKK ニュースを通じて 20 年以上前から RKK のことを知っていました。当時神奈川県民サポートセンターの部屋を使って毎月英語の学習会をもつていたので、共用スペースに置いてある RKK ニュースはよく見ていたのです。しかし、20 年後の今になって、RKK のメンバーの方々と一緒にベトナム語を学ぶことになるとは、当時想像するべくもありませんでした。

私は自分の英語力も、まだまだ実践的な能力にはほど遠いとわかつていながら、かねて英語に加えてさらに別の外国語を学びたいと考えていました。そして今回、ベトナム語クラスを受講する貴重な機会を見つけた

のです。私たちは、当初からの受講者のほとんどがやむを得ない事情でクラスを離れた数名を除き、今も学び続けていることは誇るべきことはないでしょうか。そして、私たちが3年以上にもわたって、毎週日曜日の朝の90分を「習得が極めて難しい言語」を学ぶために捧げてきた、という事実を目を向けていただければと思います。このことが私たちのクラスがいかに素晴らしいかをよく表しています。

英語の学習経験だけは長い私は、特にクラスやグループで外国語の会話を学ぶには、2つの重要な条件があると思っています。それは、よい先生とよいクラスメートです。この点私たちのベトナム語クラスはとても幸運である、と自信をもって言うことができます。熱心なベトナム人の先生と、親しみやすいながらもまじめな学習仲間はまさに希少かつ貴重な存在です。いつ終わるとも知れぬゴールまでの長い道のりを、辛抱強くかつ楽しみながらこれからも続けていけると確信しています。

Many Thanks for the Instructor & Classmates

Toshiaki Miura

Three and half years ago, in the midst of Covid-19 pandemic, I found a copy of RKK News at the nearby Shimin Katsudô Centre (Municipal Civic Activity Centre), where I happened to drop by. There was an announcement about the opening of a Vietnamese language class in that issue. Despite not being a member of RKK myself, I called the provided phone number at the end of the notice to ask if I could join the class. Fortunately, I was allowed to participate. How generous RKK was!

Actually, I have known RKK more than 20 years through RKK News, as we used to have monthly English learning sessions in the meeting rooms at Prefectural Kanagawa Kenmin Support Centre. Therefore, I often looked through the RKK News. However, I had never imagined that I would end up learning Vietnamese with some members of RKK after two decades.

While I understand my command of English is far from practical competence yet, I have long been thinking of learning another foreign language besides English. This time I found a precious opportunity to enroll in the Vietnamese class. We are proud of that most of the original students from the beginning are still learning with only a few dropouts due to unavoidable circumstances in the class. Please think about the fact that we have dedicated 90 minutes to study “a very hard-to-learn language” every Sunday morning for more than three years. This fact well depicts how fabulous our class is.

As an experienced English learner, I believe I've come to understand two crucial conditions especially for learning a foreign language conversational skills within a class or group setting : having a dedicated instructor and supportive classmates. In our Vietnamese class, I can say that we are truly fortunate. Having an enthusiastic Vietnamese instructor and friendly and diligent classmates are our invaluable asset. I am confident that we can keep going forward on this long journey to our unknown goal by remaining patient and enjoying the process.

賛助会員の皆さま：ご支援ありがとうございます。

杉田あずさ、佐々木紀長、山田 実、塚越富士雄
高林信子、西浦けい子、福里浩久 (敬称略)

新入正会員の皆さま：よろしくお願ひします！

大蔵直樹 (青葉区)

RKK ホームページをお訪ねください

ホームページは随時更新しています。新設の「会員のひろば」は、広報誌のページにあります。「会員のひろば」を通じて留学生に対する支援、交流体験の他、コンサート、映画、絵画など趣味の情報交換にも利用できます。掲載希望の会員はメッセージを RKK 広報委員会スタッフにお知らせください。

広報委員会

地区からのたより

第5回地区スタッフ懇談会について

中央地区 畔取 孝

3月23日のスタッフミーティングの後で地区スタッフが集まって第5回目の懇談会が開かれました。

前回は、地区メンバーに対するRKKニュース寄稿の輪番制導入が難しく寄稿する人が偏っていることの問題提起があり、検討しました。原因はテーマとなっている「日本語支援」などの固定化にあるとの結論に至りました。この件について、後日RKKニュースの担当の方に「テーマに拘わらずに広い意味での留学生支援であれば寄稿可」といった確認ができました。

今回は、日本語支援方法について話し合い、情報交換を行いました。そのときに、勉強用の書籍でなく、料理のレシピ本を活用した話しや、ユーチューブによる勉強方法のことも話題となりました。さらに、私から「日本語支援情報交換の推進」をテーマに、会員の皆さんが日本語支援で活用した書籍の情報収集に関する協力の依頼をしました。今回の依頼は、収集した書籍情報を新会員や会員の皆さんに公表し、参考にしていただくことを目的としています。各スタッフからも賛意が示され、各地区の会員の方から情報を収集し、その結果を一覧表にまとめることとなりました。収集した情報は会員間で共有できるような方策を今後検討いたします。

当懇談会では、共通する課題を持ち寄って、お互いに話し合い、情報を交換し、意見を出し合うことで相互に刺激を与える効果が期待できます。また、各地区の皆さんの声も反映することができれば、提案、提言等の発信も可能かと考えます。このような活動を通して、地区間の交流、共同イベント、日本語支援の情報交換会、小グループ活動にも繋がることができればと思っています。



西地区交流会の一年を振り返って

西地区 小島 明子



第一回地区交流会はコロナ禍のため、ZOOMで開催されました。

対面でもオンラインで交流出来たのは良かったです。2023年度のスローガンのもと、これからの西地区交流会のあり方について話し合いました。対面での交流会の方が気楽に話し合える、テーマを決めて小グループに分かれて話し合うのも勉強になる(例えば日本語支援の仕方のアイデア、困ったこと、留学生との交流について等)、他地区との交流などの意見が出ました。チャット GTP、ZOOMでの画面共有など新しい事にも知識を広げる必要性を感じました。

第二回地区交流会は一年振りに対面で開催されました。いつもと違う試みとしては、ミャンマーからの元留学生のインミンパパさんをゲストに迎えたことです。日本語を学ぼうとしたきっかけ、専門の情報物理セキュリティの研究などのお話を聞けました。RKK に入会して良かったことは「心のサポート」があったことです。また将来にはRKKでの体験を生かした「ボランティア」をしたいと思ったそうです。私たちの活動が留学生の力添えになって嬉しく思いました。

第三回地区交流会も対面で開催出来ました。珍しく少人数の参加者でしたが和やかな会となりました。徳屋さんと杉田さんが七夕の写真集を作成されました。皆さん趣味を楽しまれたり、体操をして体力維持に励んでいます。

第四回地区交流会も対面で開催されました。4年振りに開催されたRKK文化祭で、作品展には西地区の多くの方が参加され嬉しく思いました。「西地区がRKK発祥の地であるので皆でRKKを支えていきましょう」との声がありました。地区の皆で語り合いRKK活動へのアイデア、近況報告などを交えて活気のある交流会にしたいと思います。



ひらつか市民活動センター市民とNPOのマッチング交流会

湘南地区 平澤 映二



ひらつか市民活動センターによる3月19日の「集まれ！ ボランティア！ 市民とNPOのマッチング交流会」に参加しました。今回は12団体がエントリーしました。ボランティア活動に興味がある人が沢山出席され熱心に各団体のプレゼンを聞かれました。また、出席できずオンラインで見たいという人のためにYouTubeでのライブ配信も行われました。交流会全

来場者は約35人、その内、来客の市民は約14人で、年配の方と共に若い方の出席もあり、用意された席はほぼ満席でした。市民活動センターが今回のイベントのチラシを学校などに配布された効果だけでなく、このところコロナが落ち着いてきたことで少しはボランティア活動をしたいと思う人が増えてきたかと思われます。各団体共に活動を市民に熱心にPRされました。

各団体のプレゼンの後、市民とNPOとのマッチングの場が設けられました。私共はテーブルにリーフレット、RKKニュース、そして創立20周年記念誌を揃えました。男性3人と女性1人の計4人がRKKのブースを訪ねられました。男性3人はRKKの活動、留学生のこと、そして留学生支援の内容・方法等の熱心な質問があり、特にRKKニュースの「留学生のたより」記事に関心を示されました。これらの方々は現役ですが、今後のためにボランティアを勉強中とのこと。直ぐの活動は難しいとのことですが、我々の活動に興味をもたれたようです。また女性からは和服の着付けが趣味で七夕祭りの浴衣などの着付けの手伝いについて質問をいただきました。

プレゼンとその後のマッチングの場での質問対応を合わせて2時間のイベントでしたが、RKKの活動について興味を持ってもらえることができてよかったと思います。RKKは深水、佐々木の両氏が出席しました。



東地区からのたより

東地区 鈴木 隆

3月10日に今年度の4回目の地区交流会をいつもの武蔵小杉駅近くの川崎市民活動センターで対面にて実施しました。未だ世間ではコロナの影響も残っているようですが、今年度になってからの交流会は、1回目がハイブリッドで留学生を混ぜて、2、3回目は会員だけでしたが、対面にて実施しています。徐々にコロナの影響は脱しているという感じです。

今回は地区会員が7名に加えて、萩原さんと中央地区の畔取さんが特別に参加して頂きました。畔取さんは、他地区との交流を通じて日本語支援についての今までの皆さんの支援方法、体験などや使用教材などを情報収集して、そのノウハウを会員が共有できるような事を考えたい、という趣旨で参加して頂きました。交流会では今までの様に、RKK の状況や新たに25周年記念事業の企画といった全体像のお話や、各活動グループ、委員会の報告、また各自の活動状況を発表しあい、活発な質疑応答がなされました。

最後に、これから留学生との交流を地区として更に広げる意味もあり、留学生を招待して、会員間の横の交流をもつ新たな方策についてもメンバー間で話し合いを持ちました。今年度の交流会はこれで最後ですが、新年度に向けて、また新たな活動を地区として推進して行きたいと考えています。ただコロナ前は交流会が終わった後に懇親会を開催していましたが、今回も懇親会を開催しませんでした。そのうちに懇親会も再開して完全にコロナ禍を脱却できる事を期待しています。

RKK ニュース作成への参加をお願いします。

RKK ニュースを年4回発行しており、そのつど企画、原稿依頼、編集、校正、発行を行っています。編集で使う Word の利用法は毎回ほぼ同じで、難しいことはありません。編集作業の当番は年1回程度です。その他の作業は共同/分担で行っています。紙面作り、コミュニケーションに少しでも興味のある方、一緒にニュースを作りませんか。編集会議へのオブザーバー参加は大歓迎です。ご希望の方は下記までご連絡下さるようお願いします。いつも広報委員会にご協力を頂き有難うございます。

連絡先 e-mail : rkk1025office@yahoo.co.jp (広報委員会宛と記してください) 広報委員会

キャリア支援委員会 傾聴について

キャリア支援委員会 岸野 任宏

1. 傾聴とは

私が産業カウンセラー協会で学んだ「傾聴」とは、あくまでもカウンセリング（心理的相談）を遂行するための、基本的な手段としての「傾聴」である。すなわちアメリカの心理学者 Carl Rogers の「クライエント中心療法」を基本とするものである。

クライアント（話し手）が自分の持っている課題を安心して自由に話すこと（外在化）が出来るようにカウンセラー（聞き手）が対応する必要がある。外在化によって話し手が自ら課題を解決する意欲を喚起することができる。

カウンセラー（聞き手）に必要な要素は

- (1) 純粋性 (genuineness) または自己一致 (congruence)
- (2) 無条件の肯定的配慮 (unconditional positive regard)
- (3) 感情移入的な理解である。(empathic understanding)

聞き手は話し手の言葉を否定しないで、“相づち“や”うなずき“をして内容をまとめやすくなるように配慮する。感情移入的な理解は必要であるが、同情的 (sympathetic) ではなく共感的 (empathic) な理解をするようにする。

キャリア支援 (キャリアコンサルタント) には別の要素が求められる。すなわちクライアントが望む情報を提示することが必要となる。ただしこの場合でもその情報の選択はクライアント自らが行うようにする。

2. 傾聴と RKK 活動について

傾聴がそのまま即 RKK 活動に直接的に役立つとは思えない。

RKK 活動は「留学生と語り合う会」のタイトルどおり留学生と一対一で「語り合う」ことが原則である。人間対人間が真剣に「語り合え」ば、多種多様な内容についてお互いに「気づき」を得てお互いに成長出来るようになると思う。この多種多様な内容とは「日本語支援」、「就職活動」「社会活動・見学」などでしょう。ここではじめて「傾聴」の態度・スキルが生きてくるように思える。語り合う展開は各個人にとって多様なものとなるであろう。

以上勝手な私見を記述しましたが、ご質問をいただければ出来る限り対応をいたします。



ICT 推進委員会

Web 会議での課題 (ハード面およびソフト面)

ICT 推進委員会 永作 重夫

多くの場面で Web 会議が実施されているかと思しますので、今更ですが確認ポイントをハードの面とソフトの面で整理しましたので、紹介します。

1. ハードの面

- 1) Wi-Fi などの Web 環境がきちり整っていること。
最も基礎的でありながら、大切な前提条件である。
- 2) 映像面においては、外付けのカメラの方が良い。(パソコンのカメラは最低限)
顔が暗くならないように、逆光にならないように、カメラの位置と光源を配慮する。
- 3) 音源の発信、受信は、最も重要であるので、ヘッドセットとか別マイク、スピーカーの使用のほうが、より良い。(パソコンのマイク、スピーカーは最低限)

2. ソフト面

- 1) 多人数での会話

* はっきり視線を向ける

Web 会議の場合、発言者の視線は、すべて参加者に同じように見えるため、リアルな会議以上に参加者を見つめて語りかける視線が大事。⇒多分にカメラを見てあげることが、相手を見つめることになります。でも多くの参加者の反応を見ようとすると、カメラではなく、パソコンの画面を見る必要があります。臨機応変な対応が必要です。

* 意識的に手をつかう

今話している内容と連動する動作を意識的に手で示すことで、参加者は自然と話の内容に入り込める。

* チャット機能の活用

チャット機能でコメントを募って個々の参加者の意見を収集し、必要に応じてフィードバックすることで参加者との双方向性を高める。

* 互いを知る機会としての会議の場

顔と名前を一致させ、互いの情報を知る機会として会議の場を利用することもできる。

* 参加者の無音のフィードバック

参加者がうなずいたり、拍手をしたり、笑ったりする動作や表情が画面にあふれていれば、発言者は勇気が得られ、会議の一体感が高まる。

* 自分を見つめなおす

Web 会議では、他者から見える自分の姿をモニターできる。また、録画すれば、自分の声、ジェスチャー、表情などを客観的に見つめ直し、改善が図れる。⇒自分のしゃべり方の確認及び映り方の確認には、録音録画したものを参照したほうがよい。

* 発言権を確認する

自分が発言者かどうか迷う場合は、かならず司会者に確認をとる。また、自分のあとの発言者を指名するときには、その人の名前を発言の最後に入れるようにする。⇒司会者の指示に従って、話をするルールが必要でしょう

* 相づちは視線やうなずきで代用

Web 会議では相づちは不要で、理解の相づちは視線で、同意の相づちはうなずきで代用が可能である。

* 長い発話を分割する

Web 会議では、発言者の 1 回の発話が長くなりがちなので、複数の発話に分割することが望ましい。⇒長い発言は、対話においてもよくないと思います。

* 画面共有による共同作業

画面の共有は資料を見せるだけでなく、スプレッドシートで共同作業を行ったり、作業の過程をやって見せたりするときに力を発揮する。⇒これが最も効果的だと思います。

* 例外を認める

個々人の事情に応じて、Web カメラの免除などの負担軽減策を講じ、疲労感を下げる工夫を施す。

2) 1対1での会話

* 画面共有による共同作業（これが最も効果的だと思います。）⇒双方向で、資料の共有を図り、活発な会話ができることが、Web でのメリットかと思います。

* チャット機能の活用（そう思います）⇒1対1であれば、話したほうが早いですが、後のために情報として残すのであれば、チャット活用もありだと思います。

1対1であれば、双方が顔出しする必要はないかもしれません。電話の延長線のほうが話は集中できるかと思います。そうすれば、どの時間帯でも活用できるかと思います。

顔出しの効果は、限定的かと最近、思っています。

※ 参考資料：「リモートワークの日本語」 著者 石黒 圭（小学館）



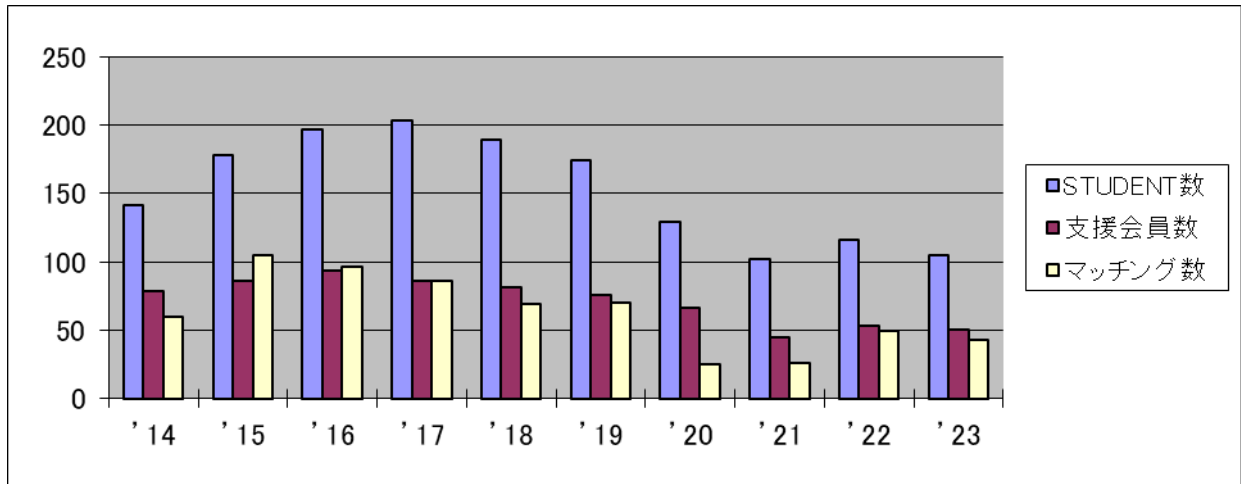
会員委員会

マッチング管理推進担当からの報告

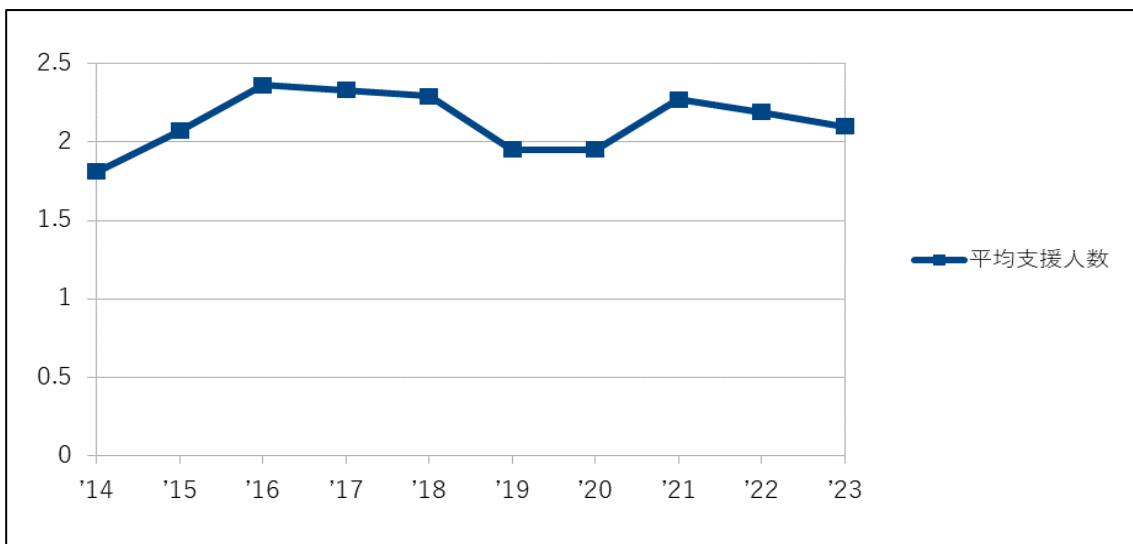
- ・2014年度から、2023年度までの日本語支援状況の推移を図示しました。
- ・人数等は、すべて延べで数えた数です。

矢野 純

年度	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23
STUDENT数	141	178	197	203	189	174	129	102	116	105
支援会員数	78	86	93	86	81	76	66	45	53	50
マッチング数	60	105	96	86	69	70	25	26	49	43



年度	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23
平均支援人数	1.81	2.07	2.36	2.33	2.29	1.95	1.95	2.27	2.19	2.1



おもな活動 (2024/2 から 2024/4 まで)

スタッフミーティング

- ◇3/23 に 2023 年度第 4 回スタッフミーティングを開催。本年度の活動全般と新年度への抱負について各活動 G、地区交流会、委員会からの C&C (報告、連絡、相談) を実施。

活動グループ

- ◇日本語支援 G : 本年度は 4 年ぶりに日本語スピーチ大会を開催。今後のスピーチ大会のあり方を検討中。
- ◇文化・ファミリー交流 G:3/30 昨年に続き二俣川こども自然公園でお花見を実施。留学生と家族 18 人を含め総勢 33 人が参加。
- ◇外国語学習 G : 中国語講座(10 人受講)とベトナム語講座(9 人受講)は週 1 回オンラインで実施。
- ◇社会見学 G : 3/15、第 79 回見学会は「町田市バイオエネルギーセンター」で実施。留学生 5 人を含め 18 人が参加。

地区交流会

- ◇東地区 : 3/10 に対面式交流会を実施。他地区スタッフも含め 9 人が参加。状況報告と情報共有を図った。
- ◇西地区 : 1/21 に対面式交流会に、9 人が参加。RKK 発祥の地であり、RKK の活動を盛上げることが誓った。
- ◇南地区 : 1/14 に 6 人が参加して対面式交流会を実施し、会員の近況を共有。
- ◇北地区 : 2/3 に他地区スタッフも含めて 9 人で対面式交流会を実施。
- ◇中央地区 : 3/10 に対面式交流会を実施。他地区スタッフを含め 6 人が参加。日本語支援情報を共有。
- ◇湘南地区 : 3/6 に 9 人でオンライン交流会を実施。交流会の活性化につき意見交換。

委員会

- ◇会員委員会 : 新入会員リクルート、入会窓口業務、会員名簿更新管理、マッチングの推進。
- ◇広報委員会 : RKK ニュース 95 号の編集。HP, Website の更新。カラーリーフレット配布推進。
- ◇キャリア支援委員会 : 「キャリア支援オンラインサロン」を月 1 回開催。RKK ニュースへの投稿。
- ◇企画委員会 : 会議室予約管理、助成金申請。
- ◇会計委員会 : 収支決算、精算処理、年会費振込管理。
- ◇ICT 推進委員会 : 生成 AI、チャット GPT の調査、設備機器の導入検討。
- ◇事務室 : スタッフミーティング準備、年会費納付依頼、事業計画立案、議案書作成、総会準備。

留学生の皆さんへ / To International Students

Let's join one-to-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・ 日常会話 (Daily Conversation) ビジネス会話 (Business Conversation)
- ・ 卒論、レポートの文書指導 (Writing Japanese Theses & Reports)
- ・ 新聞／書籍等の読解 (Reading Newspaper & Books)
- ・ 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)
- ・ 就職活動 (Job Hunting/ Entry sheets/Interviews)



Enjoy visiting plants/ laboratories and participating in various cultural exchanges.

Contact : 津田(Tsuda) e-mail sakura_tsudakei@yahoo.co.jp

Website : <https://sites.google.com/view/newrkk/>

正会員募集中

留学生と一緒に国際交流を楽しみましょう。RKK では下記のプログラムを用意していますので、皆様のご希望に合わせて、留学生と様々な形で交流出来ます。

- ・日本語学習支援（留学生と一対一で日本語の勉強、会話をします。）
- ・文化・ファミリー交流（フェスティバルを開催し、異文化交流を深めます。）
- ・社会見学（企業、研究施設など見学、名所のハイキングなどにも行きます。）
- ・外国語学習（留学生が先生となって中国語・ベトナム語を勉強します。）

**RKK の活動に興味をお持ちの方は RKK のホームページをご覧ください。
入会申込書はホームページ「入会案内」から入手できます。**

編集後記



桜の開花が地球温暖化にともない毎年早まっています。2024 年も早いのではと予想されながらも、春嵐と花冷えで4月の入学シーズンまで咲いてくれました。

新入学、新生活を始めた学生や社会人の皆さんの門出を祝っているようでした。

私も新人広報委員として、先輩委員の皆さまに助けを頂きながら編集を担当いたしました。

寄稿して下さった会員の皆さまや原稿依頼にご協力いただいた皆さまに心からの感謝を申し上げます。

植竹 光枝

NPO法人 留学生と語り合う会

連絡先：〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦
Eメール：rkk1025office@yahoo.co.jp Tel & Fax: 045-813-8327



ウェブサイトのご案内

PC の場合には [npo rkk](http://npo.rkk) で検索、または <http://rkk.world.coocan.jp/> をクリック、
スマホの場合には <https://sites.google.com/view/newrkk/> をクリック、または QR コードをご利用ください。

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

RKK ニュース編集：RKK 広報委員会 2024 年春号担当 植竹 光枝

April.25,2024

無断転載をお断りします。